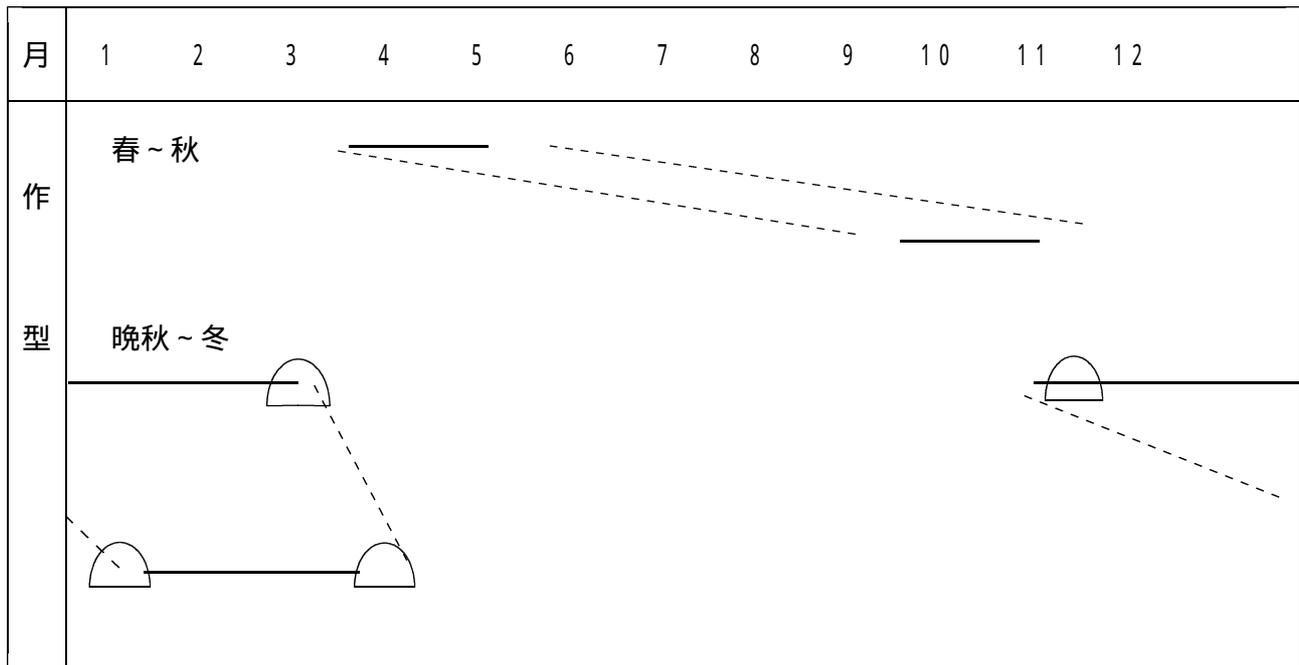


こまつな

1 作型



— : 播種

- - - : 収穫

◡ : トンネル被覆

アピールポイント

- ・耐暑性や耐寒性の優れた品種の組み合わせにより、ほぼ一年中栽培が可能です。
- ・防虫ネットや不織布を利用することにより、省農薬栽培が可能です。
- ・品種は多岐に渡り、葉色が淡緑から濃緑まで様々な種類が栽培されています。
- ・アブラナ科野菜の中でもビタミン類や鉄、カルシウムなどのミネラル類を含み、特に茹でた場合はホウレンソウと比較してカルシウム、ビタミンAが豊富です。



2 各作型のポイント

(1) 春・秋まき栽培

生育期間は春まきで約40日、秋まきで約60日です。

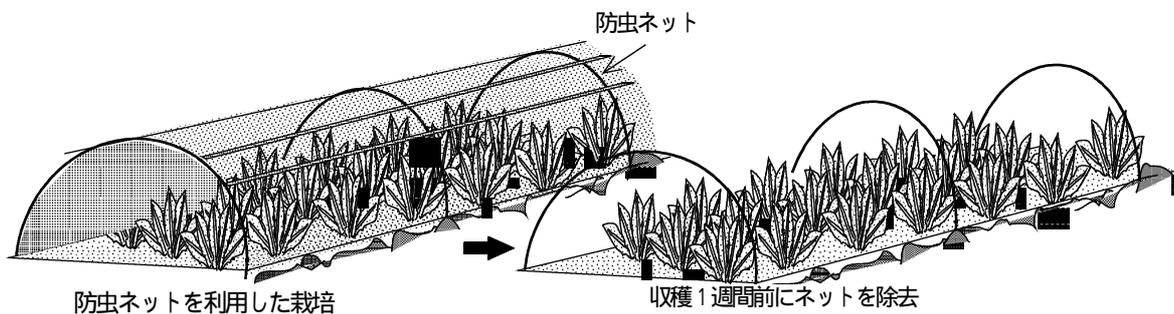
この時期は雨が比較的多く、白さび病や炭そ病の発生に注意が必要です。被覆資材を使用すると発生を抑制できます。

生育期間が比較的短いので、1回に播種する面積は労力にあわせて調節し、長期間収穫を可能にするため、播種は数回に分けて行います。

(2) 夏まき栽培

生育期間は短く30日前後です。

コナガ、ヨトウムシ等の害虫の発生が多いので、防虫ネット等を利用した防除が有効です。防虫ネットは収穫1週間前に除去し、十分に光に当てます。



(3) 冬まき栽培

厳寒期であるため、トンネルやベタがけなどによる防寒対策が必要です。トンネルやハウス栽培では特に均一な灌水が重要で、灌水むらにより、生育の不揃いが生じないように注意します。

生育期間は12月上旬まきで約140日、1月上旬まきで約110日、2月上旬まきで約90日です。

(4) 各作型共通

生育期間が比較的短い野菜であるため、一斉に発芽させ、均一な生育を図ることが大切です。

発芽が揃うように播種前は十分に灌水を行います。播種は点まき、または条まきのいずれかで行い、条まきした場合は、本葉が1~3枚の頃、株間を3~4cmになるように間引きします。

台風や大雨が予想される場合は、寒冷しゃなどを事前にべたがけし、被害の軽減を図ります。

収穫は本葉4~5枚、草丈20~25cmを目安に行います。生育の早い時期は特に収穫適期の幅が狭いため、計画的に作業を行い、草丈が伸びすぎないように注意します。

